2019
vol.33
Aug

黄河の森
KFG

発　　行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢 野 正 行
編集責任者／小 川 良 太

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL.http://www.kobe-chinese.com/kouganomori
ＩＰ:05031111874

オトカ前旗第１基事業地の友好植樹記念表示板前にて

ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

P.2　第１５回総会報告
　　オトカ前旗３期３年目事業地の視察
P.3　庭木の健康診断２１
　　絵本からのメッセージ２８
P.4　中国便り　端午の節句と思い出
　　お悔みいたします

第15回 総会の報告

黄河の森緑化ネットワーク第１５回通常総会は５月２５日(土)神戸市中央区の中華会館で開催されました。総会に先立ち石嘉成代表理事から、今年で日中緑化交流基金の支援が終了することにより事業の転換期を迎えることになり、事業内容の検討はもとより新たな資金・人材の確保に向けて会員全員ともに一層の努力をとの挨拶がありました。

引き続き第１号議案２０１８年度事業・決算・監査報告とその承認。第２号議案２０１９年度予算とオトカ前旗の９年目となる最終事業年の事業計画、国内活動の六甲山植樹等の提案・説明が行われ、質疑応答を得て満場一致で承認されました。

総会後の講演会には会員・一般市民４５名が来場され、高橋学立命館大学環太平洋文化研究センター長から「環太平洋から見た南海トラフ地震ー大災害に備えよ」と題して講演をしていただきました。高橋教授は環境考古学・災害リスクマネジメント研究の立場から、政府も注意喚起を行っている南海トラフをはじめとする巨大地震への備えを積極的に発信されておられます。最初に日本は４つのプレートが出会っている世界に例のない地域である。巨大地震の発生は、環太平洋という地球規模の俯瞰の中で理解すべきことだと話され、地震の規模と死亡者を含む被害規模は比例しない。日本の太平洋沿岸は巨大都市が集中しており一旦発生すると被害が巨大化すると説明されました。

災害から身を守るためには居住している土地の履歴(成り立ち)、住居の点検(耐震・建築年代等)、自治体作成ハザードマップ（問題点もあるが)の確認、そして「安全は他人任せでは守れない。住民同士の相互扶助体制の構築」を呼び掛けられました。

最後に大地震の約６０・７０日前から地震の連続発生する例が見受けられるので、予兆現象としてとらえられるか研究に取り組んでいるとのことでした。

オトカ前旗３期３年目事業地の視察

事務局長　矢野正行

２０１９年５月３０日、元号が令和になって初めてのオトカ訪問となりました。今回は第１期のフルス村・第３期フルフカサ村の苗の生育状況を確認するための訪問でした。今年度が最終事業年度となる３期３年目は、例年になく春からの雨量が少なく苗の生育不良との報が入っていました。今回の訪問メンバーは全員で７名、ご高齢にもかかわらず石嘉成代表理事も参加されました。

オトカ到着現地時間の夜９：００頃となり食事をとった後は、明日からの植樹地(砂漠化土地)の視察に備えホテルで早めに就寝しました。

５月３１日は午前第１期植樹地の生育状況を見るために訪問しました。この地区の生育状況は順調で、中には我々の背丈をはるかに超える高さまで成長したものも多くありました。当地は地下水位が高い地域である事が樹木の生長の大きな要因であると推測されます。植樹地内を歩いていると我々に驚いた野ウサギが走り去り、頭上にはそれを狙っていたのか大型の鳥も舞っていました。このように植生の回復だけでなく、小動物達の姿が再びみられるようになることを期待させるシーンでした。昨年訪問した際に壊されていることが判明した、日中友好植樹の記念看板が再設置されていることを確認し、参加者全員で写真に納まりました。

午後は第３期植樹地を訪れた。現地担当者の説明によると、今年は春先から雨が非常に少なく、植え付けた苗木も殆ど成長していないと言う事でした。実際に現地を歩いてみると、例年では砂地の下に少しの水分が感じられるのですが、今回は乾燥して砂がサラサラしていました。担当者も６月と９月の補植は、大変な数量にのぼるだろうと予測していました。

９年目植樹地の境界杭を点検するため、オトカ政府の担当者と植樹地を歩いて回りましたが、やはりどこも楊柴・檸条ともに成長が悪く、良くみないとどれが植えた苗木かわからないような状態でした。

沙障沿いの今春の苗が育っていない

私が植樹のため蘭州市の黄土高原やオトカ前旗の砂漠化土地を訪れると、不思議と雨が良く降るため、現地政府担当者から冗談で「矢野先生には、植樹地に社を造るから永住して欲しいと」と言われたことがあります。雨を降らす神様になって欲しいとの事のようです。余談はともかく、本当に今後の苗木の成長が心配されるところです。

オトカ前旗を離れる６月１日の午前中は、カウンターパートの中心人物である陶迪女史(トーチィー)と今後の方針について協議をしましたが、陶迪女史は日中緑化交流基金の助成が終了しても、何らかの方法でオトカ前旗と関りを持って欲しいと希望しており、特に植樹と合わせ青少年の相互交流は是非とも実現したいとの事でした。私も国際交流として、オトカ前旗との交流は是非継続したいと考えています。尚、

事業地の牧畜家夫妻との再会

陶迪女史は人口約３０,０００人のオトカ前旗政府の女性のトップであり、政府指導部４人のうちのただ一人の女性だそうです。

最終日には昨年と同じく銀川市北郊の中心地から車で約１時間半の地にある、銀川市科学技術大学日本語科の教員２名と学生３５名の皆さんと約２時間にわたり意見交換会を開き、中国の若者の考え方や意見を伺うことが出来ました。やはり日本を訪問したいとの学生が多く、ほとんどの学生が日本企業への就職を希望していました。今後も日中交流の橋渡しが出来るよう頑張りたいと考えています。

学生交流会参加者一同

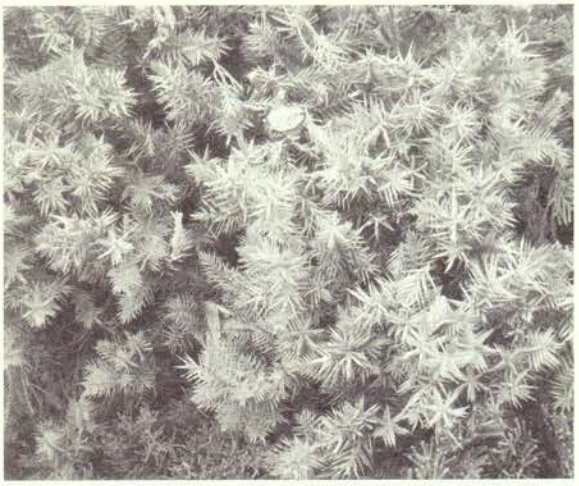
私と環境(30) 庭木の健康診断 ㉑

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」
天野孝之

夏の剪定作業

カシ類やシイ類は、一年中枝に葉をつけている庭木で、常緑樹と呼ばれています。常緑樹の仲間には、クロガネモチ、モチノキ、イヌツゲ、ツバキ、サザンカなど、また針葉樹ではマツ類、スギなどがよく庭木として植えられています。これらの常緑樹の庭木は、年中枝に葉をつけているため、整枝剪定する時期に困ることがあります。常緑樹は夏になると新梢も充実し、枝を切ってもすぐに夏芽が吹き生育しますので、7月から8月上旬までが整枝剪定する適期です。今年伸びた枝の2～3芽を残し切り落とします。さらに退色し始めた古い葉を取り除き、枝が込みすぎた箇所を透かし、風通しや採光を図り、庭木の健全な生育を促します。また通風、日照改善を行うことにより、病虫害の発生も抑制することができます。植栽木で混みすぎた庭は、通風、日照が悪くなり、カイガラムシ類やアブラムシ類の吸汁性害虫が発生しやすく、また病原菌の最適な環境にもなります。

スギやカイヅカイブキ、マツ類などの針葉樹は、刈り込みばさみで刈り込むと、葉の途中で切ることになり、残された葉の切口が写真のように茶褐色に枯れこみ大変見苦しくなります。昔の植木屋は丁寧に一本一本手で抜き取っていました。このため時間がかかり、クロマツ一本の剪定を仕上げるのに一日以上かかることがあったそうです。このため、関西ではよくクロマツは「金食い松」ともいわれていました。スギやカイヅカイブキの仲間は、枝を透かすように剪定をし樹形を整えます。これを行うと樹冠内部にチラチラと日があたり、枯葉も少なくなります。特に垣根に植えられているカイヅカイブキなどには、ぜひ行っていほしい剪定方法です。カイヅカイブキの場合、剪定した後スギの葉によく似た針葉が出てくる場合がありますが、針葉が出てきた枝の下で再度切り戻します。樹冠に穴が開きますが、周辺からの枝の誘引は行わず、穴の開いたまま数年待てば周りから元気な枝葉が成長してきます。慌てて周囲から枝葉を引っ張り埋め戻すことは行わないほうがカイヅカイブキのためにもいいでしょう。



カイヅカイブキの強剪定により発生した針状の葉と枯れ葉

庭木の整枝剪定を行い、よく発生する病虫害を防ぎましょう。

絵本からのメッセージ28

「にじいろのさかな」

畑中弘子（児童文学者）

ぎらぎらと太陽の照り付ける夏には涼しい川や海が恋しくなります。今回は絵本を通して、水の中の美しい世界をのぞいてみたいと思います。

「にじいろのさかな」は、きらきら輝くうろこを持っていて、「にじうお」と呼ばれています。自分の華麗な姿を鼻にかけ、誰とも仲良しになろうとしなくて、とうとう独りぼっちになってしまいました。寂しくてしかたのない「にじうお」は、ある日、賢い大だこに尋ねます。「どうしてみんなは自分を好きになってくれないの？」。すると大だこは答えます。「きらきらうろこを1まいずつほかのさかなにくれてやるのじゃ」。ためらいながらも、「にじうお」は自慢のうろこを他の魚にあげていきます。うろこをあげればあげるほど何故か嬉しく、たった一枚になっても、何故か幸せな「にじうお」です。そして、誰もが、「おいでよ、にじうお。いっしょにあそぼう！」と誘うようになりました。

考えさせられる内容と共に、頁をめくるのが楽しくなるとても綺麗な絵本です。

作：マーカス・フィスター
訳：谷川俊太郎
（講談社）

中国便り

端午の節句と思い出

楊　玉麗
（中国 銀川市在住）

毎年旧暦の５月５日は端午の節句です。今年の節句は２日前に終わりました。端午の節句は中国の愛国の士、屈原を記念する特別な日です。屈原は中国の戦国時代楚国の愛国・忠臣の人として有名な古代の大詩人です。しかしそのことが彼を故国から迫害を受け、放逐されることになり、最後は汨羅に身を投じました。屈原は楚辞と言われる韻文を確立し、代表作に「離騒」「九歌」「天問」等があります。伝説では屈原の死後人々は悲しみ、川辺に行きその亡き骸を探した。人々は船を操り遺体を探し出した。人々はおにぎりを取り出し川に投げ入れた。そのおかげで魚やえエビが遺体をかじり傷つけることがなかったそうです。

江南地方では毎年端午の節句前後の時期に行われる龍船競争は、人々が楽しむ伝統の最大の水上祭りです。レースの船は青・黄－白に彩色された龍頭の飾りをつけ、船には多くの人が乗り込み一斉に漕ぎ出します。船上の人々は漕ぎ手を奮い立たせるために、耳をつんざくばかりに銅鑼を打ち鳴らします。川の両岸には溢れんばかりの大観衆が詰めかけ、その光景は壮観なものです。これはほとばしる愛国心を持った屈原を偲ぶ水上祭りです。これは人々の愛国・団結の心を体現した行事です。西北の人間は龍船レース行事には参加しません。私も直接見たことはありませんが、テレビで興奮と熱気ある場面を見たことがあります。

今日では川に投げ入れられた団子は形を変え、今では様々な多くの種類があり、南北では一様ではありません。肉や豆あるいは最も良く見られるのはもち米で、食用の葉っぱで包みます。葉っぱは葦やハスの葉を使います。寧夏で最も多く見られるのは葦の葉でもち米とナツメを包み、甘く味付けされた柔らかいものです。そして微かに葦の香りがします。それは水辺の葦の群落の中に居るような気分させます。粽を包むのにはコツが要ります。形よくもち米を包むには３枚の葦の葉を用意します。赤いナツメ目印に三角形に置きます。これを葉で包んだ後、タコ糸で縛ります。最後に円錐形、もしくは三角形にします。それから鍋で少なくとも２時間蒸します。毎年この時期には町の家々ではもち米と葉を水に漬け、そして粽を包みます。妹は粽の上手な作り手です。私は粽をこれまで、うまく包んだことがありません。少し残念です。

私は甘粛で育ちました。小さいころのことを思い出すと、父親が早朝に起き、家の中のドア毎に水滴をつけた柳の小枝を飾り付けていました。これは蚊が入って来るのを防ぐと言われています。おかげでその一年間は、蚊に刺されることが少なくなりました。

父はまた、ヨモギを摘んできて乾燥させます。この日に摘んだヨモギが最も良く効くとされています。子供が病気でお灸をしたという家庭があれば、父は惜しげもなくそのヨモギを渡したでしょう。一方、母親は節句に備えて刺繍入りのお香袋を作り、そこに香草を入れ飾り房を取り付けます。各家の子供は胸にお香袋をぶら下げ、手首には赤や緑の紐を巻き付けます。私達子供達はそれが何を意味するかは理解していませんでしたが、この日はとても楽しい一日でした。大人になってからこの香袋と手首の華やかな紐は災いを避けるという意味がこめられていることを知りました。しかし、今はこの子供時代と同じようなわくわくすることはありません。

今年の端午の節句は間もなくやってきます。今年の節句は回族にとってはラマダンの時期でもあります。寧夏の人々は５連休で、皆ワクワクしています。美味しい粽が食べられるだけではありません、私には数日間の休暇が取れます。今日は連休の初日です。美味しい粽を鍋一杯に作ろうと準備をしています。

日本の皆さん、来年の端午の節句に銀川に来られたら、美味しい粽を御馳走します。

六甲山クリーン＆グリーン活動

六甲山植樹（下草刈り）－14期植樹活動－

●開催日時　令和元年９月２８日（土）
※雨天中止
下草刈り作業（雑草抜き・手鎌による刈り取り）
●集　合　ＪＲ住吉駅南広場（午前９時）
●服　装　長袖、帽子、運動靴
●持参品　弁当、飲み水、軍手、雨具、タオル

六甲山クリーンアップ活動

－身近にできることから始めよう－

●開催日時　令和元年９月１４日（土）
ハイキングコースのゴミ拾い作業
●集合場所　華僑会館（神戸市中央区）
午後２時
●コース　再度山ハイキング道
●持参品　飲み水・軍手・雨具・タオル

日程は変更のこともあります、参加予定の方は事務局までお知らせください！

お悔み申し上げます

会員の方々の訃報が届きました。

今春２人の会員の方々の訃報が届きました。

理事の稲木稔さん（７４才）。２月４日逝去されました。現役時代は造園家として都市公園・緑化事業の仕事をしておられ、１９９９年の「大阪花と緑の博覧会」にも携わって来られました。当会の活動においても、その豊富な知識と経験から多くの助言を頂いてきました。ご遺族によると、５月のオトカ前旗へ旅行も楽しみにしておられたとの事でした。会にとっては大きな損失です。

会員片岡宏郎さん（７６才）。昨年１２月に逝去されたとのご連絡を頂きました。奈良県で造園会社を経営しておられました。奈良県内の寺社の庭園の管理も手掛けておられました。樹木の専門家として中國ツアーの折にも行く先々の植物の解説をして頂き、その土地の認識を深めることが多くありました。

お二方にはこれまでのご尽力に感謝申し上げると共に、ご冥福をお祈りいたします。